

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1  
管理機関名 兵庫県教育委員会  
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日）～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立柏原高等学校  
学校長名 井上 千早彦  
類型 グローカル型

3 研究開発名

TAMBA Mirai Project 丹波からTAMBAへ  
～グローバルな視点で丹波の地域課題解決に主体的に取り組むグローバルリーダーの育成～

4 研究開発概要

地域が抱える課題と世界が抱える課題との共通点を見だし、SDGs（持続可能な開発目標）に関連するテーマについて、地域の自治体や関係機関に加え、海外の教育機関も含めたコンソーシアムを構築し、グローバルな視点で共同研究を行うことで、地域と世界をつなぐ柔軟な発想を持ち、立場や文化、背景の異なる人々とも協働しながら実践的に学び、地域資源を生かした課題解決について提案し、地域や世界の未来を創造できるグローバルな人材の育成をめざす。

育成すべき具体的な資質・能力として、①地域の魅力と課題を理解し、活性化や課題解決に積極的に関わろうとする姿勢、②世界と地域を結び付けた広い視野から地域課題を解決しようとする柔軟な発想力、③価値観や文化の異なる人たちと協働しながら課題解決に取り組む実践力等を培うことで、将来グローバルな視点で地域を創造することのできるリーダーを育成できると考える。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- |             |  |   |                                  |
|-------------|--|---|----------------------------------|
| ・学校設定教科・科目  | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input type="checkbox"/> 活用していない |

## 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館館長	学識経験者
高畑 由起夫	関西学院大学 フェロー	学校教育に専門的知識を有する者
杉岡 秀紀	福知山公立大学 准教授	学校教育に専門的知識を有する者
柳川 拓三	丹波市観光協会 会長	関係機関の責任者
Rooks Matthew John	神戸大学 准教授	学校教育に専門的知識を有する者
荻野 雅文	丹波市企画総務部総合政策課政策係長	関係行政機関の職員
西田 利也	兵庫県教育委員会事務局高校教育課 課長	関係行政機関の職員

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
丹波市	市長 谷口 進一 (令和2年12月4日まで) 林 時彦 (令和2年12月5日から)
丹波市教育委員会	教育長 岸田 隆博
丹波市国際交流協会	会長 山口 直樹
丹波市商工会議所	会頭 大地 但
丹波市観光協会	会長 柳川 拓三
丹波医療センター	院長 秋田 穂東
福知山公立大学北近畿地域連携機構	市民学習部長 杉岡 秀紀
ワシントン州 ケント市	市長 ダーナ・ラルフ
ワシントン州 オーバン市	市長 ナンシー・バックラス
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也

## 8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家			
海外交流アドバイザー	松岡 秀司	カンボジア パンナサストラ大学教授	都度依頼し謝礼支払い
地域協働学習支援員	鴻谷 佳彦	NPO 法人 gift 理事	都度依頼し謝礼支払い

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会等					○						○	
高校生 国際問題を考える日											○	
ひょうご次世代リーダー 育成推進懇話会（仮称） 運営									○ 中止			
ALT の増員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバル・リーダー育成の 事業実施				○ 中止								

### (2) 実績の説明

- ・研究の進捗状況等を把握し、年2回の運営指導委員会において、運営指導委員会と連携しながら、学校に対して適宜指導、助言を行った。
- ・兵庫県教育委員会、大阪大学、WHO 神戸センターが主催して「高校生国際問題を考える日」をオンラインで実施し、兵庫高校の取組を他校と共有し、探究的な学びの普及に努めた。
- ・県内の地域との協働および県の事業であるひょうごスーパーハイスクールの指定を受けている学校を招集し、SDGsをはじめとする世界や地域が抱える課題の解決について、課題研究等の探究的な学びをどのように進めていくか等について議論するひょうご次世代リーダー育成推進懇話会（仮称）を12月に実施する予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、今年度は中止した。
- ・英語教育、国際理解教育を推進するために、ALTを1名増員し、2名配置とした。
- ・グローバル・リーダー育成事業として、例年7月に県内の高校生を対象として実施しているひょうごグローバル・リーダー育成キャンプは、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、今年度は中止した。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域課題に関する課題研究			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域課題から世界を考える日				中間発表		中間発表			中間発表	○		
テレビ会議等による海外校との協働学習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ローカルキャリア教員養成セミナー											○	○
地域医療系人材養成プログラムの開発			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域公務員養成プログラムの開発			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
「ようこそ先輩」授業				中止					中止			○
進路探究 WEEK						○	○					

\*新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業：4月9日～5月29日

分散登校：6月1日～6月12日

\*以下の項目は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止した。

- ・ケント市、オーバン市（アメリカ）における研修：7月派遣
- ・金海外国語学校（韓国）：8月派遣、2月受入
- ・東山高級中学（台湾）との交流：11月修学旅行
- ・パンナサストラ大学（カンボジア）における研修：8月派遣
- ・丹波イングリッシュキャンプ：8月、2月
- ・在住外国人との共生：5月～2月

### (2) 実績の説明

#### ①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

1年生 総合的な探究の時間「丹 BAL I」

- ・知の探究コース 研究テーマ

「丹波市の人口問題について」「丹波竜の認知を広げる活動－英語で世界に発信－」

「丹波地域を活性化するイベント企画」「丹波地域の祭りについて－川裾祭をテーマに－」「鳥獣被害対策－鹿の利用について－」「丹波栗の有効活用について」「恐竜について」「丹波地域の観光振興について－丹波竜をテーマに－」

- ・一般クラス 研究テーマ

「市民活動・地域づくり」「空き家活用・地域づくり」「移住関連事業」「外国人から見た丹波の魅力」「教育」「丹波布」「丹波での仕事・企業」「丹波の三宝・地域の特産物」「丹波の森林・生態系」「丹波市行政の取組」「丹波竜」「鹿肉（ジビエ料理）」

## 2年生 総合的な探究の時間

### ・ 知の探究コース「探究Ⅱ」研究テーマ

「新しい授業形態に適した教室の机配置の提案」「萌えるコミュニティづくりとストレス軽減を目指すライフスタイルの提案」「オンライン授業は『教える』と『学ぶ』を繋ぐことができるのか」「教育格差と勉強法～今の私たちにできることはあるのか！？～」「脱プラスチックは本当に可能なのか」「フェアトレード商品の購入量を上げるための一考察」「丹波を元気にする特産品開発～甘酒お屠蘇の開発～」「障がい者の自己肯定感を育む環境づくり」「人口に影響される私たちの生活」「感染症に対する人々の認識について」

### ・ 一般クラス「丹 BAL 台湾」

月	内容	活動等
6	オリエンテーション 「台湾とは何か」	グループで話し合い、まとめた内容をクラス発表
	後藤みなみさん講演会「台湾 日本 人生」	
7	後藤さんの課題を受けて	グループで話し合い、まとめた内容をクラス発表
8	『台湾とは何か』担当箇所のまとめ	
9	夏休みのまとめ	グループで話し合い、まとめた内容をクラス発表
	台湾の高校生との交流準備	オンライン交流動画準備
10	台湾の高校生との交流準備 台湾（治平高級中学）とのオンライン交流	日本語によるグループ発表、意見交換
11	台湾の高校生との交流準備 台湾（台南第一高級中学）とのオンライン交流 書籍・講演会・交流を通じて学んだこと	動画について意見交換 発表準備
	野嶋 剛さん講演会	
12	台湾（台南第一高級中学）とのオンライン交流 まとめ	動画について意見交換 「学んだこと」クラス発表
1	文章講座	
2・3	文章作成	

○11月17日、台南第一高級中学保護者会から、本校を含む日本の友好校5校各校にマスクを2,000枚送付いただき、オンラインでマスク贈呈式を実施した。

## 3年生

### ・ 総合的な探究の時間

4・5月の臨時休業期間中、新型コロナ関連の資料集を配布し、進路希望に関連づけて探究させた。その内容を、6月に3分間スピーチで発表し相互評価を行った。

以降、「安楽死」「人種差別」「ネットでの誹謗中傷」「芸能人の政治的発言」「ミソジニー／マンスプレイニング」などをテーマにしたオリジナルの小論文指導プリントを提示し、論述練習により文章作成能力の向上を図った。また、「哲学的対話」「数

学探究」など10講座をゼミ形式で実施し、各自で選択し活動した。

・選択科目「グローバル」

授業では、探究活動、動画作成、英語でのプレゼンテーションやディベートを実施し、海外とのオンライン交流を5回実施した。前ALT（アメリカ・ウィスコンシン州）、前長期留学生（アメリカ・ワシントン州）、現ALTの友人（オーストラリア在住）、台湾との交流を行った。初対面の人たちと英語だけでやりとりすることを重ねる中で、語学力が向上し、コミュニケーション力にも自信をつけるなど、成果をあげている。

インターアクト部

・韓国とのオンライン交流

金海外国語学校との交流活動を、オンラインで4回実施した。日本語文化研究部の生徒との交流であり、日本語での実施をした。自己紹介、進路について、日本で販売している韓国食材の紹介、日本のお菓子ランキング日韓比較をテーマに、グループ同士での意見交換をしながら、交流を深めた。交流を通して韓国への理解を深めることができた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

以下の教科・科目において、地域との協働による探究的な学びを推進した。

1年生 総合的な探究の時間「丹 BAL I」

2年生 総合的な探究の時間

・知の探究コース「探究Ⅱ」

・一般クラス「丹 BAL 台湾」

3年生 総合的な探究の時間「総合Ⅲ」、選択科目「グローバル」

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

3年生選択科目「グローバル」を知の探究コースと一般クラスを対象に開講し、1・2学年の2年間取り組んだ探究活動を継続できるようにしている。英語によるプレゼンテーションやディスカッションを行い、海外に向けて発信する力の育成を図った。

また、他の教科においても、昨年度作成したカリキュラムマップを基に、事業を通して育成する資質・能力を、各教科のどの単元で取り組むかを検討したり、教科横断的な学習の実施に向け、検討を進めた。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

知の探究コースの生徒に、課題研究発表等に率先して取り組ませながら、一般クラスの生徒も含めて課題研究発表等に参加する機会を増やした。

⑤成果の普及方法・実績について

・発表実績

12月20日 甲南大学リサーチフェスタ2020 「ロジカルデザイン賞」受賞

12月21日	全国高校生 MY PROJECT AWARD 2020 マイプロジェクトアワード リフレクションプログラム
1月30日	Glocal High School Meeting 2021 【全国高等学校グローバル探究オンライン発表会】 英語発表部門「銀賞」、日本語発表部門「銅賞」受賞
2月6日	全国高校生 MY PROJECT AWARD 2020 マイプロジェクトアワード 関西 Summit
2月6日	兵庫県立豊岡高等学校課題研究発表会【豊高アカデミア】(ポスターのみの参加)
2月20日	グローバルリーダーズ summit in 飯野高
3月20日	SDGs Quest みらい甲子園第2回関西エリア大会

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

全国及び地域での研究発表への参加は、平成30年度4大会、令和元年度9大会に出場しており、今年度も同様にその機会を持つ計画であったが、新型コロナウイルスのため、中止されたものもあった。オンラインで実施された発表会には積極的に出場し、甲南大学リサーチフェスタ2020では「ロジカルデザイン賞」を受賞、Glocal High School Meeting 2021では英語発表部門「銀賞」、日本語発表部門「銅賞」を受賞した。

また、今年度は、海外研修にかえて、台湾、韓国、アメリカ、オーストラリアとのオンラインによる交流を実施した。オンラインでの海外交流により、2年生では全員が海外の高校生と交流の機会を持つことができた。今年度新たに、台湾、カンボジアの学校とのオンライン交流を始め、今後も継続した交流ができることとなった。

今年度開講した選択科目「グローバル」では、生徒が2年間取り組んだ探究活動に継続して取り組むことで、研究内容を深化させ、さらに英語でのプレゼンテーションやディベートを行い海外に向け発信するなど、成果を上げている。

### ・外部検定への取組推進

(卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル以上の生徒の割合を25%にする取組)

平成30年度10%→令和元年度15%→令和2年度15%

### ・研究授業を含めた地域課題研究に関する研修会を充実させる取組(目標10回)

平成30年度4回→令和元年度8回→令和2年度10回

### ・グローバルな社会又は地域課題に関する公益性の高い国内外の大会に参加する生徒を増やす目標(目標100人)

平成30年度40人→令和元年度80人→令和2年度84人

### ・課題研究に関して地域人材の参画を促す。(参画する延べ人数目標70人)

平成30年度40人→令和元年度80人→令和2年度90人

## 12 次年度以降の課題及び改善点

### (1) カリキュラムの研究・開発について

令和3年度は、選択科目「グローバル」に関わる教科を広げ、課題研究をより深化させながら、教科横断型の授業の取組をさらに進めていく。

### (2) グローバルサミットの開催について

海外交流の内容を発展させ、国内、海外の複数の学校による共通テーマでのディスカッションの場として、グローバルサミットを開催する。

#### 【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局高校教育課	T E L	078-362-9447
氏 名	松岡 克晋	F A X	078-362-4288
職 名	主任指導主事	e-mail	koukoukyouikuka@pref.hyogo.lg.jp